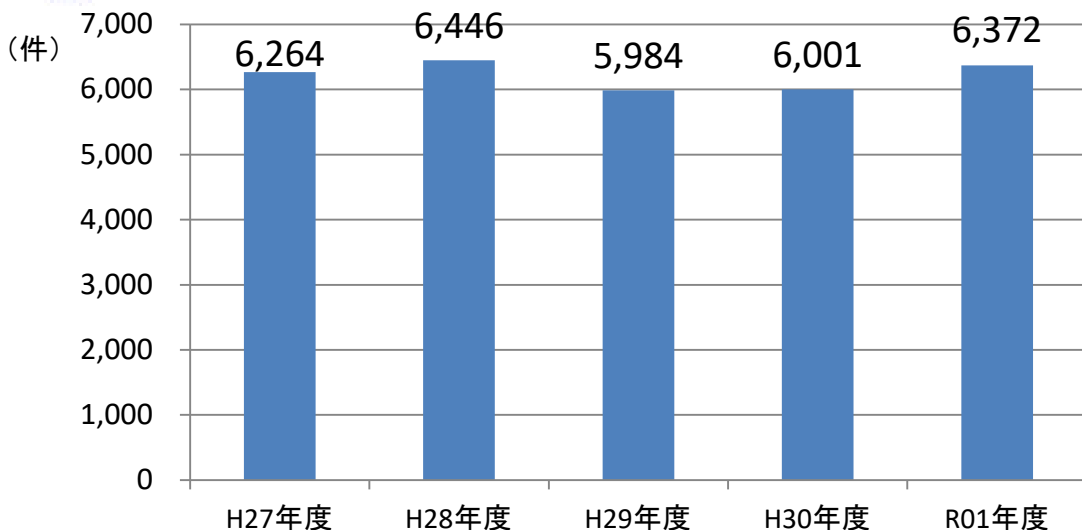


# 手術技術度DとEの手術件数

## ■ 解説: process指標

国立大学附属病院は急性期医療の要であり、外科治療の能力が必要です。これは、手術件数だけでなくどの程度難しい手術に対応できるかを表した指標です。手術の難しさと必要な医師数を勘案した総合的な手術難度が技術度です。外科系学会社会保険委員会連合の試案により2000種類あまりの手術を技術度AからEの5段階に分類しています。技術度DとEでは熟練した外科経験を持つ医師・看護師や器具が必要なため難易度の高い手術と考えられます。

## ■ 当院の実績



### 《自己点検評価》

整形外科、母子女性科、眼科、循環器内科、消化器内科、消化器外科、心臓血管外科領域において、難易度DとEの手術を多く実施しています。

100床あたりの件数は1119件(R01年度)。これは、全国の国立大学病院でトップクラスの実績です。

今後も、難易度の高い手術に対応する医師の教育・育成に取り組み、安全で質の高い医療の提供に努めます。

## ■ 定義

外科系学会社会保険委員会連合(外保連)「手術報酬に関する外保連試案(第9.1版)」において技術度D、Eに指定されている手術の件数です。1手術で複数のKコードがある場合は、主たる手術のみの件数とします。

## ■ 算式

レセプト算定件数。経年比較を可能とするためにレセプト算定ベースで算出し、外保連試案第9.2版に準拠しています。